

福島県GH協通信



明けまして
おめでとうございます。



新春を迎え、謹んで新年のご挨拶を申し上げます。

会員の皆様におかれましては、穏やかな新春を迎えられたこととお慶び申し上げます。また、昨年中は多大なるご指導ご協力を賜り、厚く感謝申し上げますとともに、本年も変わらぬご指導・ご鞭撻を賜りますようお願い申し上げます。



* ごあいさつ *

会長 森 重勝
役員 一 同

明けましておめでとうございます。

皆様におかれましては、輝かしい新年をお迎えのこととお慶び申し上げます。

さて、私たちグループホーム事業所は地域密着型サービスの位置づけの中で、昨今の高齢化率の上昇に伴い、地域における資源（ハード・ソフト）としての重要性や地域に貢献する使命も益々高まっております。当協議会は今年でNPO法人設立3年目を迎えます。昨年は、ホームページを立ち上げ当協議会に関する活動内容や会員情報を広く発信してまいりました。また、フォーラム、レビー小体等の研修会の開催を行いました。本年は今まで以上に会員の皆様のご要望に応え、又情報の提供も密に行い、タイムリーな情報の提供、そしてさらに介護の質、グループホーム全体のレベル向上のために、さまざまな研修会等、地域や利用者そして会員の皆様のためになる活動を行なっていきたいと思います。

また、たんの吸引についての研修会については、行政より委託の話も出ており、介護保険の制度改正についてもさらに積極的に取り組んで行きたいと思っております。

本年も尚一層のご指導・ご支援・ご協力を賜りますようお願い申し上げ、新年の挨拶と致します。

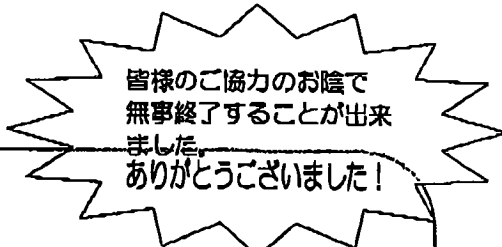
平成22年における全国グループホーム団体連合会の主な活動実績

- 平成22年 3月10日 東京において「グループホームの未来に向けて」の提言とシンポジウムの開催
- 平成22年 4月 7日 3月12日の札幌の火災に伴い、厚労省、国土交通省、総務省、消防庁の担当者と役員との意見交換会を行なう
- 平成22年 5月 総会において新役員の選出（新代表者に北海道の加藤氏、東北ブロックからは副代表宮城県 蓬田氏、役員（制度政策担当）福島県 森、監事 山形 金沢氏
- 平成22年 8月 厚労省担当室長と全役員との意見交換会（制度改正に伴い団体連合会としての意見をまとめて、10月末までに出してほしいとの要望あり）
- 平成22年8月～10月 制度政策担当役員が4回会合を行い、要望の骨子をまとめる
- 平成22年10月17日 代表者会議を開催し提案書決定。同日厚労省担当室長他3名の方に内容説明。同日民主党幹事長室へ提出
- 平成22年10月27日 民主党担当者議員3名に内容説明。同日厚労省にも再度説明を行う

※10月に提出した提案書は別添をご参照ください。

第 6 回 福島県実践報告会 平成22年11月18日・19日開催!!

グループホームがすべき役割
～地域の一員として求められること～



平成22年11月18日(木)～19日(金)、会津若松市の「御宿東風」にて、第6回福島県実践報告会を開催致しました。

福島県からは140名、東北各県からも約10名の参加を頂き、合計150名の参加を得て盛大に開催することができました。

今回の大会テーマ、「グループホームがすべき役割 ～地域の一員として求められること～」は、「地域密着型サービス」のあり方を再考したうえで、地域において、私たちに求められていること、私たちにできることや果たすべき役割というもの様々な視点から検証して、グループホームが、明日に向けた地域づくりの中心を担う立場でありたいとの思いで掲げたものです。

1日目は、橋本好博研修委員長、森望勝会長の挨拶、その後来賓の福島県保健福祉部介護保険室長 坂井信一氏、会津若松市長 菅家一郎氏、認知症のひと家族の会福島県支部 会津地区代表土屋みよ子氏からご挨拶を賜り、記念講演へと移りました。その後2会場に分かれて「グループホームでのこだわり」をテーマとしての事例発表・自由討論を行いました。同テーマでの事例発表・自由討論を通じて、私たちが地域の一員としてすべき役割について、参加者たちがいい刺激を受けあい、今後のあり方について各々感じられたのではないのでしょうか。

2日目では、「グループホームでのこだわり」をテーマとしての事例発表を行いました。2日間行なわれた事例発表・自由討論について森会長より総評をいただき、閉会いたしました。

今回で6回となる実践報告会ですが、今後もこのような充実した研修会を継続して開催できればと感じております。そして、福島県をはじめ会津若松市、各東北GH協議会からも後援を頂き、盛大に開催できましたこと、心から感謝申し上げます。ありがとうございました。

1日 11月18日(木)

記念講演 I 「自然環境保護とボランティア活動」

講師: ふるさとのか・荒川づくり協議会
会長 伊藤 賢之 氏

記念講演 II 「認知症フォーラムVTRから」

講師: ㈱NHKエンタープライズ 事業本部 第1事業センター 企画事業
業務主幹 横川 清司 氏

事例発表会 「グループホームでのこだわり」

12事業所による事例発表

自由討論 事例発表者による自由討論



2日 10月14日(水)

事例発表会 「グループホームでのこだわり」

6事業所による事例発表

平成22年度 福島県認知症グループホーム協議会 表彰者

- 管理者 グループホーム フクチャンち
ナーシングケアセンター 緑奔の園 さくら木
グループホーム南湖
グループホームムミンの森
● 一般職員 グループホームつどい「宝柳家」

- 成田絹子さん
佐藤拓也さん
本柳瑞恵さん
菅野雅仁さん
西村美紀子さん

業績が特に顕著な方に対して、その功績を顕彰し、その労苦に謝意を表するとともに認知症介護事業の進捗に寄与せしめるための表彰です。

平成23年1月7日 第32号

福島県GH協通信

今後の研修会開催のご案内

県全体

◇ 管理者研修会 ◇

日時 平成23年2月
場所 県南地区

今年度最後の福島GH協開催研修会
となります。

詳細が決まりましたら、ご案内いたします。
皆様のご参加をお待ちしております。



各地区

◇ 浜北 ◇

第4回 研修会 日時 平成23年1月14日 14:00~15:30
場所 ひばり生涯学習センター

研修会の詳細については、各地区研修
委員長へお問い合わせ下さい。
開催決定した研修会のご案内は、随時
お送りいたします。

◇ 県北 ◇

第4回 研修会 平成23年1月14日の管理者・リーダー交流会にて
詳細を決定します。

他県GH協開催

◇ 宮城 ◇

『経営者セミナー』 テーマ:新しい風を見すえた介護事業 経営戦略
日時 平成23年2月14日(月) 13:00~17:00
場所 仙台市民活動サポートセンター
参加費 非会員:5,000円
※詳細については、平成23年1月5日FAX送付のご案内をご覧ください。

福島GH協会員様の参加費
(2,000円)については、
協議会にて負担致します。

他県開催

◇ 地域ケア研究所主催 ◇ 認知症介護研究・研修東京センター委託事業 高度化ケア推進事業

『認知症ケア研修会』 ひもときシートについて
日時 平成23年2月10日(木) 10:00~16:00
場所 仙台市福祉プラザ
参加費 会員:無料 非会員:2,000円
※詳細については、平成23年1月5日FAX送付のご案内をご覧ください。

ひもときシートは、センター方式
をベースにした新しいシートで
す。是非この機会にご参加くだ
さい。

◇ NHK厚生文化事業団主催 ◇

『フォーラム 認知症新時代』 いきいきと暮らすために
日時 平成23年2月6日(日) 13:00~15:45
場所 電力ホール (仙台市)
参加費 無料
※詳細については、平成22年12月29日FAX送付のご案内をご覧ください。

認知症の第一線の専門家たち
によるフォーラムです。
毎回、応募多数で抽選となる人
気のフォーラムです。

平成23年1月7日 第32号

福島県GH協通信

* 各地区主催研修報告 *

1.研修名称	第2回 県中地区研修会	記載:ひまわり 橋本好博
2.開催期日	平成22年7月20日(火) 10時00分~15時45分	
3.開催場所	安積総合学習センター	
4.出席者	会員 43名 準会員1名	
5.講師依頼	介護老人保健施設 ひもろぎの園 石井利幸氏	
6.内容	<p>AM 講義:若年性認知症の理解 演習1「もし自分の身内に若年性認知症と診断されたら」 ・どんな問題が起こると思うか? ・その問題を解決する為にどんな支援があったらいいか?</p> <p>PM 講義:環境が認知症の方に及ぼす影響の理解 演習2「入居して間もない認知症の方への支援」 ・入居して間もない方は、どんな状態に陥りやすいか? ・どうして①の状態になってしまうのか?(原因) ・その状態を解決していく為にはどう対応していくか?</p> <p>* 午前は「若年性認知症の理解について」基礎疾患別の特徴を判り易く講義していただき理解を深める事ができた。また、演習では「もし自分の身内が若年性認知症と診断されたら」どんな問題が起きるのか?またその問題を解決したり小さくしていく為にはどんな支援が必要かをそれぞれグループで考え発表した事により、身近な問題として捉えられ社会的支援体制が不十分である事など、現実的課題として様々な苦勞がある事を実感できた様子です。午後は「環境が認知症の方に及ぼす影響の理解」について講義と演習を行いました。全体的な感想として、初めての研修内容だったので大変参考になった。今後、若年性認知症の方と関る際には、きちんと対応できるように、またGHが相談窓口となれるようにしたい等多数の意見が聞かれ、大いに役立つ研修だった事と実感しました。の部:「認午前知症の理解について」講師の石井氏より2時間の講義を受ける。新人を対象とした研修であり、認知症を熟知する為にわかりやすく説明して頂き、理解を深めることができた。また、認知症高齢者への対応については具体的な事例をもとに説明して頂き、日頃悩んでいることの解消、これから介護の仕事をしていく上で自信が付きそうな内容であった。</p> <p>午後の部:「認知症の理解~疑似体験を通じて~」 目的:自分が目的や目標に向かっていくときに、相手の不可解な行動や対応によって、自分自身がどのような気持ちとなり、行動として表れるかを体験する。すべての課題に正解はなく、表情がわからず、無言で何度もかえされることに対し、どのような気持ちになるかを体験した。体験後、グループごとに意見を出し合い、介護していく上で大切なことを認識した。また、各事業所の情報交換により共感することがあり、交流も図られた。</p>	

1.研修名称	第3回 浜北地区研修会	記載:えくせる 齋藤成一
2.開催期日	平成22年10月28日(木) 13時00分~17時00分	
3.開催場所	浮舟文化会館	
4.出席者	会員 24名	
5.講師依頼	東北ブロック認知症グループホーム連合会 会長 蓮田隆子氏	
6.内容	<p>前半に事例報告会(6ケース)、後半には蓮田隆子先生に「事例報告のまとめ方」のご講義をいただきました。 『実践報告会』 実践報告会のテーマとしては、①グループホームがすべき役割~地域の一人として求められるもの~ ②あなたの想いをかなえたい~住み慣れた地域(まち)の和の中で~ いずれかを選択して行うものとなりました。 ・森の都 ・ホームズくにみの郷 ・やすらぎの里 ・クレール双葉 ・高原の家かわうち ・せんだんの家 の6施設がそれぞれの実践の成果を発表し、参加者はその6つのテーマをそれぞれの所属施設に重ね合わせながら聴き、学べた研修だったと思います。</p> <p>講義「事例報告のまとめ方」 「事例報告の目的と意義」とは、事実について、「自分やチームのあり方を振り返り立ち止まって考えよう解釈したか」を文字(文章化)し自分やチームの実践力を高めることにあるという初歩的なところから説明していただき、非常に分かり易く、受講者の中には「受け身ではなく、積極的な事例報告をする楽しみが生まれた。」という方もおり、先生が「浜北地区の今後の実践報告会がよりステップアップする事を期待します。」との言葉に少しでも応えられるようにしなければならぬと思った研修会でした。</p>	



今冬のインフルエンザ総合対策について

昨シーズンは新型インフルエンザの大流行がみられましたが、今年は、季節性インフルエンザか、新型インフルエンザのいずれも流行の可能性があります。季節性インフルエンザは特に高齢者が重症化しやすい傾向がある一方、新型インフルエンザは子どもや成人を含め広い年齢層で重症化する場合があります、特に今年は、全ての年齢の方がインフルエンザへの注意が必要です。

インフルエンザへの対策の基本は、新型インフルエンザでも季節性インフルエンザでも変わりません。ご家庭や職場でも、インフルエンザへの対策に努めていただくようお願いいたします。

**できるだけ、かからないために！
かかっても、うつさないために！**



1 「かからない」ための予防方法

- ・ 人混みへの外出を避ける
- ・ 人混みでのマスク着用
- ・ 頻繁な手洗い
- ・ 咳エチケット
- ・ うがい

※こんな人は、特に注意を！

- ・ ぜん息などの慢性呼吸器疾患、慢性心疾患、糖尿病や腎機能障害の方
- ・ ステロイドを定期内服している方
- ・ 乳幼児、妊婦、高齢者など

2 「かかったかな」のサイン

- ・ 急な発熱(38~40度)
- ・ 咳、咽頭痛、悪寒、頭痛、筋肉痛、下痢
- ・ 潜伏期間は1~7日間
- ・ 有症期間は3~7日程度

- ・ 若い人に多くの感染が確認されています。
- ・ 風邪は、のどの痛みや鼻水で始まり、その後徐々に熱があがるという違いがあります。

3 症状が出たときの行動

- ・ 無理して出勤・登校をせずに休む
- ・ 必要に応じて治療薬をもらい、症状が始まった日の翌日から7日間は自宅療養

※受診時の注意

- ・ かかりつけ医にあらかじめ電話をした上で受診
- ・ 受診時には必ずマスクを着用し、周囲のインフルエンザ患者の有無を伝える

4 本人と家族が心がけること

- ・ 外出は避ける
- ・ 栄養をとり、安静にして十分な睡眠をとる
- ・ 家族への感染を防ぐため個室で療養をする
- ・ 水分補給をこまめにする
- ・ 定期的に部屋の換気をする
- ・ 処方薬は決められたとおり最後まで飲む
- ・ 患者と接した家族はすぐに手洗いを行う
- ・ 看護の際は、患者・家族ともマスク着用

「咳エチケット」とは

マスクを着用せずに、咳やくしゃみをする時、見えない唾液が空中に飛んでしまいます。咳やくしゃみをする時は、ティッシュなどで口と鼻をおおい、顔を他の人に向けずに、できれば2メートル以上離れましょう。鼻汁・痰などを含んだティッシュはすぐにゴミ箱に捨ててください。咳やくしゃみがつづくならマスクを着用してください。

平成 23 年 1 月 7 日 第 32 号

福島県GH協通信

*** 加入事業所のお知らせ *** 平成22年9月~12月現在

◆正会員◆ 150 事業所 / 170 事業所中 (加入率 88.2%)

◆準会員◆ 認知症デイ 5 事業所 小規模 11 事業所 (新規加入 1 事業所)

正会員

事業所名	住 所	TEL	FAX
グループホーム みなみふくしま	福島市永井川字松木下 34-6	024-544-0225	024-544-0118
グループホーム 小高	南相馬市小高区小高字金谷前 138	0244-44-4111	0244-44-4112
ハーモニー松長	会津若松市一箕町松長 5 丁目 11-31	0242-37-0505	0242-37-0506
グループホーム まいんど三穂田	郡山市三穂田町富岡三本木原 2-82	024-964-1711	024-954-2440
ハーモニー磐梯	耶麻郡磐梯町大字磐梯字山道 366	0242-74-1000	0242-74-1005

準会員

小規模多機能型居宅介護事業所まいんど三穂田	郡山市三穂田町富岡三本木原 2-82	024-964-1710	024-954-2440
-----------------------	--------------------	--------------	--------------

ホームページをご覧ください！！

今年度より、当協議会のホームページを開設いたしました。

協議会に関する活動内容や会員情報を広く発信していくために、施設紹介のページをはじめ、協議会の活動内容、事業計画・報告、研修会の情報を掲載するページや、入会のご案内のページ、関係団体等のリンク集なども盛り込んだサイトとなっております。

是非、こちらもご覧ください。

<http://care-net.biz/07/f-ninchi/>

事務局より

◆ 管理者・ユニット数など届出事項に変更があった場合には、速やかに事務局まで連絡くださるようお願い致します。

*** ビデオ・DVDの貸出しを行っています！！ ***

「痴呆の人から学ぶ」全3巻 (DVD・ビデオ)
クリスティー・ブライデン講演より
→事務局へお問い合わせ下さい。



協議会主催の各種研修会 (DVD・ビデオ)
→各地区研修委員長へお問い合わせ下さい。

福島県GH協通信 第 32 号
平成 23 年 1 月 7 日

編集・発行
〒960-1241 福島市松川町字産子内 1-1
福島県認知症グループホーム協議会
事務局
TEL 024-567-5800 FAX 024-567-5802
E-mail: fukushimaninchi@cyber.ocn.ne.jp